

ソニー教育財団が考える「科学する心」



◇なぜソニーが乳幼児教育？ ～創業者が願った子どもたちの未来～

ソニー創業者の井深 大は戦後の荒廃の中、子どもたちの明るい未来のためには、科学教育の充実と乳幼児期の心を育てる教育が重要だと考えていました。この創業者理念を受け継いだソニー教育財団は、60年以上の長きに亘り、学校や園へのさまざまな支援活動を続けています。2002年からは、未来を生きる子どもの成長を願い、「科学する心を育てる」をテーマとした乳幼児教育支援に力を入れています。

◇なぜ「科学する心」が大切なの？ ～世界が認めはじめた財団の想い～

子どもは無限の可能性をもっています。特に、人としての“土台”が作られる乳幼児期は、子ども自身の成長はもちろん、身近な大人がどれだけその可能性に気付けるかがとても大切です。「科学する心」というと、難しいと思われがちですが、その育みは、子どもが何に、どのように働きかけているのかを見つめることから始まります。「科学する心」の視点で保育をすると、「認知能力」に加え、近年注目の「非認知能力^{※1}」も相まって育ち、保育の質も向上することが、今までの多くの実践研究から分かってきました。半世紀も前に創業者が唱えた「乳幼児教育の重要性」は、今やOECD^{※2}の国際調査等でも盛んに研究されています。

※1 数値化できる認知能力に対して、目に見えない、数値化しにくい、心や社会性や自己に関する力

※2 経済協力開発機構の略。国際経済全般について協議する機関

◇「科学する心」って何だろう？ ～寄り添うことで見えてくる7つの子どもの心～

日々の保育の中で、目を輝かせた子どもの、このような姿を見たことはありませんか？

- ・ダンゴムシがモゾモゾ動いたり、触ると丸まったりする様子を真剣な表情でじっと見つめている姿
- ・どうすれば光る泥団子になるか、土の種類や磨き方を友達と一緒に考え、夢中で作っている姿
- ・蝶が羽化する瞬間を見た喜びと感動を、言葉や身体で表現したり、絵に描いたりする姿

ソニー教育財団では、「すごい！」「おもしろい」「ふしぎ」「どうして？」「そうだ！」「やってみよう」という子どもの思いを次の7つの視点でまとめ、育みたい「科学する心」として大切にしています。

科学する心を育てる～豊かな感性と創造性の芽生えを育む～

□主旨

子どもたちが自ら人や自然、もの、出来事と様々にかかわる暮らしの中で、豊かな感性が生まれ、主体的に遊ぶ楽しさ、学ぶ楽しさを味わう体験を通して創造性の芽生えが育まれる保育を実践する。

□科学する心

- ・すごい！ふしぎ！と身の回りの出来事に驚き、感動し、想像する心
- ・自然に親しみ、自然の不思議さや美しさに驚き、感動する心
- ・動植物に親しみ、様々な命の大切さに気付き、命と共生し、人や自然を大切にすること
- ・暮らしの中で人、もの、出来事と意欲的にかかわり、ものを大切にすること、感謝する心や思いやりの心
- ・遊び、学び、共に生きる喜びを味わう心
- ・好奇心や考える心、その心の動きから生まれる創造性や分かった時の喜びを味わう心
- ・自分の思いや考えを表現し、考え・つくり出していく楽しさの体験や、やり遂げる心

みなさんは、子どもたちの「科学する心」をどのように捉え、どのように育てていますか？

◇「科学する心」で子どもたちの明るい未来をつくりたい！

“「科学する心」の視点で子どもたちを見つめてみると、日々の保育が楽しくなってくる”

“子どもと一緒に感動し、共感できると、保育者自身もワクワクして、誰かに伝えたくてくる”

…そのような声を、多くの現場の先生方からいただくことがあります。

しかし、「科学する心」の定義に正解はありません。私たちは保育者のみなさんと共に学び、悩み、少しずつでも成長しながら、明日の保育をつくっていきたくて願っています。

「科学する心」を通して、子どもたちの“明るい未来”に繋がる保育に、一緒に取り組みませんか？